

五十嵐あやかさんは、男2人女5人の7人姉妹の上から6番目の娘さん。少子化が進む現代社会には、うらやましいほどの家庭で育った五十嵐さんは、絵を描くのがとても大好きな6年生の女の子です。

児童や生徒らに豊かな情操を育ててもらうと福井県などが主催となり行われた「フラワー・ブラボー・コンクール」で、三室小学校は春の花壇が受賞しましたが、その花壇の原画を考案し作成したのが、五十嵐さんでした。「太陽の光を浴びている花」をイメージしました。花壇に咲く赤い花が、太



五十嵐 あやかさん(12)
|| 遅羽町比島(千代田) ||

花壇のデザインに挑戦

出会い ふれあい

陽です。そして、黄色い花が太陽の光を表します。」と丁寧に説明してくれる五十嵐さんの花壇を見つめる目は、優しく満ち溢れていました。

妹さんとよくけんかするという五十嵐さんですが、「お姉さんはきれいだねと言われるとすごく嬉しいですよ。実はかなりの姉妹思いです。」

五十嵐さんの好きな科目は、予想どおりの図工でした。日頃、遅羽のきれいな風景を捉えては、描いています。そんな五十嵐さんの勝山に対する印象は、「山が高く、きれいで、緑や田んぼが多くて、田舎っぽいところが大好きです。」と、嬉しい返事が返ってきました。



受賞した三室小の花壇

青春群像



写真左から石川義幸さん、直幸さん

「将来は、二人で生産組合を作り、親から生計を独立して、自分の家族をきちんと養っていけるようにがんばりたい」と直幸さんから、強い決意を聞かせてもらいました。

兄弟揃って農業にいそしむ石川さんは、仲良しの二人兄弟。米を作るかたわら、ハウスでトマトやメロンを作り、減反の田んぼで蕎麦を作っています。そして、他所から借りたり請け負ったりして耕す田んぼは20数町歩とかなりの面積です。このため、石川さん達のおじいさんやおばあさんも含め一家全員で手分けして農作業に当たっています。

農業を始めてまだ数年にしかたっていない二人は、「どの田んぼが管理している田んぼか未だ完全に把握できていません。」と苦笑いを浮か

家族みんなで農業に満足

石川 義幸さん(22)・直幸さん(20) || 北郷町東野 ||

小さい頃から、農作業を手伝われ、その重労働に農業はいやだと思っていた一人でしたが、知らず知らずのうちに、頭と体のどこか意識しないところで農業のすばらしさを理解し、気がつけば家族一緒に農業を営み、その結果に満足している石川さん兄弟です。

お兄さんの義幸さんは既に結婚され、赤ちゃんが一人。奥さんも、子育てに追われながら、義幸さんと農作業に精を出します。弟の直幸さんは、仕事から解放されるとお父さんと外に出かけたり、友達と会って遊ぶなど青春真っ盛りです。

「直播をすると、以前は補助金が出たのに、最近では減反の免除だけ。」と愚痴が出ますが、「自分で生産したものを食べるのは、新鮮でおいしいので、農業をやって良かったと思います。」とにっこり笑う表情には、清々しさを感じます。

待ちに待った大門市開き

4月21日、平泉寺白山神社精進坂下で、平泉寺地区のかたや関係者のかたなどにより、『大門市』の期間中の安全や一層の発展を願う祈願祭が営まれ、昨年の11月下旬からほぼ5ヶ月ぶりに、「大門市」が営業再開となりました。

4月に入ると、「大門市」はまだかと待ちわびる声があちこちで聞かれます。これは、昭和63年から平泉寺地区の婦人グループ(代表 武内富美子さん)が始めた「大門市」開きが、勝山の春の風物詩として定着した証です。でも、この日は、4月下旬としては珍しく薄っすらと雪が積もり、あられの降る寒い朝となり、集まった人々は口々に「寒いですね。」と声を掛け合い、体を震わせていました。

そんな寒い中を、婦人グループのかたたちは、待ちわびて訪れてきた人々を相手に、屋台に並んだ旬の野菜や手作りの民芸品の販売に、元気よく応対していました。

また、「大門市」開きに合わせて、「かつやま特産振興研究会」(会長 三井清代美さん)が、市内6ヶ所にある農産物直売所の地図が入った看板を設置しました。この看板は、市内外のかたへの直売所の宣伝と直売所間の連帯感を持つことを目的として作られたもので、順次ほかの直売所にも設置される予定です。



大門市にいつもの笑顔が戻る



設置された看板



桜のもとで「うまいもん」

4月15日と16日の両日、「2006弁天桜うまいもん祭」が開催されました。あいにくの空模様で弁天桜は3分咲き程度でしたが、河原町周辺の桜は見ごろとなり市民や観光客で賑わいました。

勝山郵便局前の広場から河原町通りの大清水公園付近では、手打ちおろしそばやアマゴの塩焼き、ぼっかけなどの販売テントが数多く並び、来場者らは「うまいもん」に舌鼓を打っていました。このほか、中部中学校吹奏楽部による演奏が会場に華を添え、勝山まちなかスタンプラリーや大清水散策ツアーが行われました。



小雨の降る中「うまいもん」を買い求める来場者

一流の音色にうっとり

4月18日から21日にかけて、「かつやまアスペン音楽祭2006」が開催され、友好都市のアスペン市からリタ・スローンさん(ピアノ)、デビット・ヘイレンさん(ヴァイオリン)、ジェームス・ロスさん(ホルン)の3人が来勢しました。

3人は三室小、荒土小、鹿谷小でミニコンサートを開き、児童らは目の前で演奏される軽快でときに激しい一流の調べに聴き入っていました。その後の質問タイムでは、「なぜ音楽家になろうと思ったのか。」「音楽を始めたきっかけは何か。」などの質問が出され、3人は笑顔で丁寧に答えていました。



真剣な表情で聴き入る児童ら(三室小にて)